

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27195 びわ湖と森林との親しみ、ものづくりの楽しみ



開催日：平成27年8月2日(日)

実施機関：滋賀大学

(実施場所) (教育学部美技職棟1階木材加工室)

実施代表者：岳野公人

(所属・職名) (教育学部・教授)

受講生：中学生7名

関連URL：<http://www.shiga-u.ac.jp/>

【実施内容】

1. プログラムにおいて留意、工夫した点

- ・木工機械、工具を使用するため、防護めがね、実地補助など安全教育や管理を徹底した。
- ・熱中症対策のため、氷水、屋外作業のためのテント、散水、日よけネットなどを整備した。
- ・受講生の意欲や気持ちを高めるために、ワークショップの数を多く準備した。薪割り、薪の切断、ものづくり、燻製づくり、試食など。
- ・プログラム内容が地域にもすぐさま還元できるようにするために、滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課との連携をはかった。
- ・準備段階で、学生スタッフに対する実施シミュレーションを数度実施した。アイスブレイクや各種ワークショップでは、受講生と学生がよく親睦が取れていた。

2. 当日のスケジュール

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 9:30～10:00 | 受付(教育学部 美技職棟 1F ロビー) |
| 10:00～10:20 | 開講式(挨拶, オリエンテーション, スタッフ紹介) |
| 10:20～10:40 | 科研費の説明と本事業の紹介 |
| 10:40～11:00 | アイスブレイキング(自己紹介とスタッフの交流) |
| 11:00～11:10 | 休憩 |
| 11:10～12:10 | 講義及び薪割り体験(途中適宜休憩) |
| 12:10～13:10 | 昼食及び交流会(教員, スタッフとの交流) |
| 13:10～15:10 | 実習「流木からものづくり」(途中適宜休憩) |
| 15:10～15:50 | 実習「燻製作り」とクッキータイム |
| 15:50～16:10 | ふりかえりと発表 |
| 16:10～16:30 | 修了式(アンケート記入、未来の博士号授与) |
| 16:30 | 終了・解散 |

3. 実施の様子

このプログラムは、前半の講義、後半のワークショップと大まかに分かれています。森林環境の問題を認識する段階とその解決のために行動を起こす段階に対応するように準備した。

プログラムの内容は、滋賀県特有の自然環境を背景に琵琶湖や流木問題を取り上げた。この問題は、どのような影響をもたらすのか、その解決はどのようにできるのか考える時間をもってもらった。後半は、流木の切断、薪割り、流木を利用したものづくり、大鋸屑を利用した燻製づくりなどのワークショップを実施し、受講生は何らかの活動を通して、森林や琵琶湖の問題について取り組んでくれたと期待している。

以下に、各プログラムの写真を掲載する。



1. 流木問題の講義

2. ワークショップの説明

3. 流木切断, 薪割り

4. 流木ものづくり



5. 燻製の説明

6. 燻製試食

7. ふりかえり

8. ものづくり完成品(壁掛け)

4. 事務局との協力体制

代表者の所属ならびにプログラム実施場所が、所属機関の事務局から離れているため研究支援課担当者との連絡はメールなどを多用し、必要に応じて対面の打ち合わせを3回実施した。委託費の管理と経費処理、チラシの郵送、申し込み受付名簿管理などは研究支援課に協力をさせていただき、代表者はプログラムの実施準備に専念することができた。

5. 広報活動

JSPSのHPの他、滋賀大学HPにおいて実施内容を紹介した。また、チラシと依頼文を作成し、滋賀県の各教育委員会および全中学校へ配布した。また、滋賀大学教育学部附属中学校を訪問し、事業概要を紹介した。

6. 安全配慮

・熱中症予防のため飲料(氷水)や、ウインドエアコン、扇風機などを準備した。また、受講生には熱中症予防のために、水筒の準備などを事前に依頼した。

・受講生とスタッフは傷害保険に加入した。

・実施前のオリエンテーションにおいて、ものづくりやワークショップに関する安全教育を実施した。

・実施前にスタッフとシミュレーションを繰り返し、安全管理につとめた。例えば、機械の固定、不要な工具、材料の撤去、動線の確保など。

7. 今後の発展性と課題

代表者、滋賀大学も含めて今回初めての事業開催となり、開催までの準備にかなり手間暇がかかったが、今後の実施においては、今回の経験の蓄積が利用できると思う。一つの大きな課題は、夏期に開催する場合の熱中症対策であり、そのための空調設備環境を整備・充実させる必要を感じている。もしくは、事業開催時期を移動することも検討する必要があることも感じた。

実施の内容においては、丸太切り、薪割り、ものづくり、燻製作りそれぞれに対して参加者は興味をもって、取り組んでいたことがうかがえた。今後も、このようなワークショップの機会を経験することで、スタッフの技能も向上してより発展的な事業開催につながると期待できる。所属機関は教育学部であり、このような事業をとおして学生が教育者としての資質を身につけることも非常に有意義なことであると感じた。

【実施分担者】

磯西 和夫(教育学部・教授)

【実施協力者】 ___ 8名

【事務担当者】

安田 豊 (学術国際課 研究支援係)